

(川崎さん)

たけど、先ほどから出ている優先順位から考えると、逆にそういう状況下で色分けしないと、進んでいかない部分も、行政がそういう意識を持って動いているとしたら、もう少し、見方を変えていただきたいな、という思いは震災後、自分はそういう気持ちになることがありましたけれど。

今のお話を伺っていると、その仕組みさえも、まだあやふやなものかなと。障害者個別支援計画というのは、一体、何なのか。改めて疑問というか、皆さんのお話を聞いて、改めて思いましたね。

(桶屋さん)

もし、これが夏に地震が起これば、エアコンもないし、冬よりもしんどい。

(川崎さん)

どっちもどっちだと思いますよ。何しろ、まず命を守ることからいくと、外的な刺激から逃れるための行動、例えば、瓦が落ちてくるとか、ガラスの破片であるとか。まず、反射的にそれは思いました。

守ると。自分は車いすに座ってからですが、とにかく前に進んでいくことはできないから、障壁に対して自分が何とかしなくてはならない、と考えたけれど車いすは1ミリも動かなかったしね。というか、怖くて、動けなかったのが正直なところだけど。そういう時に、力をそれこそ貸して欲しい、と瞬間的に思うけど、それこそ誰も来なかった。

来るはずの人が来なかったと、そこで思って良いのかどうか。今の話を聞くとあれですけど。障害者が人に頼って良いとき、じゃないかな、と思うのですね。「助けてください」と大きな声をあげた時に、手を差し伸べて来ていただけるような環境づくりも、自分たちもしていかなくてはならないし、地域の方々にもそういう声を受け止めていただけるような、環境づくりはうまくできないものだろうか。